

2020年度業務実績報告書

提出日 2021 年 1 月 8 日

1. 職名・氏名 助教 岡田 恭子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井県立大学、授与年 平成 29 年 3 月 24 日

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅱ（2単位 毎年開講）2年次
②内容・ねらい（自由記載） 対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記載） 初めての受け持ち実習のため、実習を円滑に行えるよう一緒に患者のケアを行ったり、病院スタッフとの調整を行った。実習中の様子、実習記録、病院スタッフからの意見などをもとに個別的な指導を行っている。また、前期授業は全て遠隔授業となり、そのまま実習となったため学生の不安等に考慮し ZOOM を活用し個別指導や相談に対応した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学演習（1単位）3年次
②内容・ねらい（自由記述） がんを含む慢性疾患を持つ人がセルフケアを促進し、その人らしい生活を送るための支援に必要な看護の知識と援助方法を学習する。また、看護問題の解決に必要な思考プロセスを養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 成人慢性看護学実習へ向けて、セッション1では実習で実際に受け持つことの多い肺がんの化学療法を受ける患者看護過程の展開を行った。副作用のマネジメントや患者教育などセルフケア能力を高める看護を重要視し、事例を通して学びが深められるよう工夫した。コロナ感染予防対策により遠隔授業となったため演習は個人ワークを中心とし、セッション2では ZOOM によるディスカッションを取り入れた。成人看護学教員3名で3グループ（1G6名×2セッション）を受け持ち、各学生の個性を把握しながら指導を行った。また、遠隔授業による学生の負担や不安等にも考慮し、土日も含めいつでもメール対応した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 成人慢性看護学実習（3単位 毎年開講）3年次
②内容・ねらい（自由記述） 臨床の場において慢性の病をもつ人、または健康を回復する途上にある人とその家族に最もふさわしい看護を提供する基礎能力を養うことを目的とし、機能障害をもちながら生活していく対象の身体的・精神的苦痛、社会的役割への影響を理解し、新たな生活の維持・拡大への援助や自己管理ができるための援助を実践する。 機能障害を持つ人とその家族の生活や生き方を尊重した退院後の生活に繋げる支援のあり方を学ぶことを目的とし、退院後の生活を視野に入れた看護を実践する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義で学習した知識技術を臨床で統合して活用することで対象の理解を深め、看護を展開できるよう取り組んでいる。学生の自己課題を明確にし、病棟とのディスカッションを設けることで、病棟スタッフと学生の関係をつなぐ場とし、病棟スタッフと教員が学生指導の方向性のコンセンサスを得られるようにした。また、前期授業が全て遠隔授業となり、そのまま実習となったため学生の心身の不調に考慮し、ZOOM での個別指導や相談やいつでも携帯電話やメー

ルで対応した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位）4年次（平成30年度～） ②内容・ねらい（自由記述） 科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。 ③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 研究に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。学生が明らかにしたいと考えることを大切に、計画的に進められるよう関わった。また、主体的に行えるよう計画に沿って研究や統計に関するテキストを提示した。ZOOMを活用し、定期的に困った時はいつでも支援できるよう努めた。
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【 本】
②学術論文（査読あり） 【 本】
③その他論文（査読なし） 【 本】
④学会発表等 【 件】
⑤その他の公表実績 【 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績
(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 開放講義(大学で学ぶ看護学の魅力、金津高校、2020.12.11)

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科 科内委員 教職課程(養護教諭)、看護発展セミナー担当（令和1年～） 3年生学年担任（令和2年度）
(3)学内行事への参加
2020年度一般入試前期（金沢）、後期（東京）救護担当
(4)その他、自発的活動など
ハラスメント研修「キャンパス・ハラスメント最新事情ーこんなときどうするー事例で考える対応」参加 講師：職場のハラスメント研究所所長 金子雅臣 令和2年12月23日 第40回日本看護科学学会学術集会 参加(オンライン) 令和2年12月12日・13日